

部門別感染対策：

放射線検査部門

内容

- 1. 基本原則 2
- 2. 感染予防対策 2

Ctrl + F でワード検索ができます。🔍

1. 基本原則

- 放射線検査部門は、外来と入院患者(感染症患者も含む)が混在する場所である。
よって職員の手指や機器、器具等を介した患者間の交差感染と医療従事者の職業感染を防止するため、標準予防対策を遵守する。
- 全ての患者に接する前後に、手洗いまたはアルコール手指消毒剤による手指消毒を実施する。
※ 詳細は病院感染対策マニュアル「1-b.標準予防対策:手指衛生」の項参照。
- 感染症患者または、その疑いのある患者と接するときは、感染経路別予防策を実施する。
※ 詳細は病院感染対策マニュアル「2.感染経路別予防策」の項参照。
- 患者の感染症情報は検査依頼書に必ず記入することとして周知し、把握する。
- 感染症患者の撮影・検査は、支障のない限りその日の最後に実施する。
- 血液疾患等により免疫力の低下した患者の撮影・検査は、支障のない限りその日の最初か最後の時間に実施し、職員や他の患者との不用意な接触を避ける。
- 特別な対応が必要な感染症(新型コロナウイルス等)患者と接する場合は、最新の感染対策マニュアルの遵守に努める。

2. 感染予防対策

1) ポータブルX線撮影(病室内の検査)

- 撮影前後に手洗い・手指消毒を実施する。
- 感染症(およびその疑い)患者を撮影する際は、手袋・マスク・エプロンなど、必要に応じ適切な防護具を着用する。
- 血液や吐物など体液が曝露する恐れがある際は、手袋・マスク・ガウン・フェイスシールドマスクを着用する。
- 感染症患者の撮影は、原則その病棟内の最後に撮影する。
- 飛沫感染する感染症の場合にはサージカルマスクを、空気感染する感染症の場合にはN95マスクを着用する。
- 接触伝播の危険性が高い場合は、患者に使用する機器・器具(FPD等)及び補助具等をビニールや防水シートで覆う。

- (7) 撮影終了後は、患者に使用した機器・器具（FPD 等）及び補助具等は環境清拭クロスで清拭消毒をする。
- (8) 飛沫感染症（インフルエンザ・風疹・流行性耳下腺炎等）および空気感染症（麻疹・水痘の患者）は、感染力の低下後に撮影するのが望ましい。但し、急を要する場合は、ベッドサイドで実施する。
- (9) 血液疾患等により免疫力の低下した患者の病室に入室する前には、病棟の指示に従い手洗い・手指消毒を行い、患者に使用する機器・器具（FPD 等）及び補助具等を必要に応じてビニールや防水シートで覆い検査を実施する。
- (10) 退出する際は使用した防護具を適切に処理し、次の患者や他の医療従事者へ感染が伝播しないよう心がける。

2) X線撮影・造影検査・CT・MRI・RI・放射線治療（検査室内の検査）

- (1) 各撮影室および検査室、放射線治療室にはアルコール手指消毒剤を備え、患者に接する前後に手指消毒を行う。
- (2) 感染症患者を検査、または放射線治療をする際は、手袋・マスク・エプロンなど、必要に応じ適切な防護具を着用する。
- (3) 血液や吐物などの体液が曝露する恐れがあるときは、機器・器具・補助具などに体液が直接接触しないよう、バイリーンシートやビニールなど防水性のあるもので覆い、使用後は速やかに設置された感染性廃棄物容器に廃棄する。
- (4) 感染症患者の検査、放射線治療は、支障のない限りその日の最後に行う。
- (5) 血液疾患等により免疫力の低下した患者の撮影・検査は、支障のない限りその日の最初か最後の時間に実施し、職員や他の患者との不用意な接触を避ける。
- (6) 機器・器具・補助具など患者が直接接触れるものは、使用前または検査・治療終了後に環境清拭クロスで清拭する。
- (7) 感染症が後に判明したときは、感染管理担当課と協議して対策を講じる。
- (8) 空気感染（麻疹、水痘、結核およびその疑い）患者の使用した検査室は、検査室ごとに計算された閉鎖時間を基に使用後に閉鎖する。

- (9) 検査機器や床が血液等の体液で汚染した場合は、次亜塩素酸等の適切な消毒剤を用いて拭き取る。
- (10) 血管造影寝台の覆布は、汚染の都度、汚染のない場合でも定期的に交換し、清潔を保つようにする。

3) 環境の整備

- (1) 患者や職員がよく触れる場所は、1日に2回以上環境清拭クロスで清拭する。
- (2) 撮影時の体位を保持するために使用する撮影補助具で、スポンジなどの清拭できない素材ものは、ビニール袋に包み、使用毎に環境清拭クロスで清拭する。ビニール袋内のスポンジが血液など体液で汚染された場合は感染性廃棄物として廃棄する。
- (3) 汚染した枕やタオルなどのリネン類は、ビニール袋に入れて『感染』と明記し、一般リネンと区別する。
- (4) 多剤耐性菌など接触伝播する感染症患者の撮影後は、接触のあった環境（ドアノブ・撮影装置等）を、環境清拭クロスで清拭する。

※ただし、CD 感染症等に対しては0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液を用いて清拭消毒する。